○１番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、これより１番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

この前の日曜日の出初め式でちょっと風邪を引いてしまいまして、大変聞き苦しいかもわかりませんけど、よろしくお願いいたします。

１月ということで、改めましてことしもよろしくお願いいたします。

一般質問も本日が最終日、しかも私が最終バッターということになりました。物すごく早う終われというような雰囲気が蔓延しているように感じますけれども、精いっぱい努めさせていただきますので、最後までよろしくお願いいたします。

さて、昨年末より見舞われました世界的な不況、過去を振り返ってみても、このうし年においてはオイルショック、またバブル崩壊に代表されるように、決して順風満帆にはいかないようであります。その波が私たちの武雄市にも広がってきていると感じている次第です。市内のある企業も閉鎖になるというような情報もある中で、景気対策は非常に急がなければならないと肌で感じている次第であります。

さて、昨年の武雄市を振り返ってみまして、個人的には武雄市のスポーツ界で、10月に高松宮賜杯一般Ｂ軟式野球の全国大会が武雄市で行われました。全国大会という大会が武雄市で開催されただけでもすばらしいことだと思いますけれど、その大会に地元開催枠ということで予選を勝ち上がって出場された医療法人整肢会副島整形外科チームが見事準々決勝まで進まれるなど、全国の強豪チーム相手に憶することなく、すばらしい活躍をしてくれました。この大会を開催する上で、武雄市軟式野球連盟を初め、関係者の皆様におかれましては、準備など本当に大変だったことと思います。そのかいあって、すばらしい大会が開催されたことに改めて敬意をあらわしたいと思います。

そこで、もう１つすばらしいなと思ったのは、その会場になった白岩球場で、前回の９月議会でも日程の確認をさせていただきましたけど、壁面緩衝材が設置された中での大会運営ができたこと、これは日ごろ利用されている方、例えば、少年野球の子どもたちにとっても、安心・安全を確保した中で好きな野球をプレーできる喜びを肌で感じている次第であり、執行部の皆様にも大変感謝いたしております。

今回、私は武雄市の今後の可能性についてと通告させていただいておりますが、このような大会が武雄市でどんどん行われるようになることが重要であり、これこそ武雄市が発展する可能性につながるものだと信じております。

それでは、最初の質問に入ります。

さきの９月議会でも申し上げておりましたが、フットサル宣言を行って、具体的な動きとしては、今、フットサルクリニックの開催などを行っているというような答弁をいただきました。クリニックや大会、各種講習会など開催する際は、サッカー協会、また市内社会体育

のクラブチームの皆さんと連携を密にして行っていただきたいと申し上げさせていただいておりました。その際に、フットサルの日を制定し、フットサルフェスティバルといった年に一度のイベントを行ってみてはどうかという御提案もさせていただいておりました。そのとき、制定に向けて調整しますといった答弁をいただいておったわけですが、今回、１月18日、もう今度の日曜日になりますけど、第１回武雄市長杯ファミリーフットサル交流大会が開催されるようです。ファミリーフットサル交流大会、まずこの詳細からお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

第１回武雄市長杯ファミリーフットサル交流大会について御説明をいたします。（パネルを示す）

既に皆様、ポスターでごらんになっておられるかと思いますけれども、１月18日、白岩競技場におきまして、キャッチフレーズをぜひ皆さん覚えていただきたいと思うんですが、「朝ごはんが作戦会議・夜ごはんが反省会」という、このキャッチフレーズで、朝御飯が作戦会議になる日というキャッチフレーズで、幼児の部、小学校低学年の部、一般ということで交流種目を設定しております。現在の参加チーム、幼児８チーム、小学校４チーム、一般10チームの申し込みがあっております。大体400名ぐらいの参加者になるんじゃないかなというふうに思っております。お話にありましたように、これまでクリニック等をそれぞれの御協力をいただきまして進めてまいりました。この形で第１回の交流大会の開催を予定しているところです。どうかよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどポスターを見せていただきましたけれども、子どもから大人まで約400名という規模としては、第１回大会としては上できじゃないかなと私は思うわけです。当然冠名に第１回という文言がついておりますので、毎年行われる予定かどうかというのは、ちょっとまだ私もそこまでは把握しておりませんけど、第２回、第３回とつながっていくものと思います。これについて、サッカー協会とか、社会体育のクラブチームの関係者の皆さんとか、そういったところとぜひ連絡を密にとって、連携して開催日等は設定してくれというようなことで話をしていたかと思うんですが、この開催日について、ちょっと仮称で申しわけないですけど、例えば、武雄市フットサルの日とかというようなことで制定される場合は、できればこういう武雄市のファミリーフットサル大会というのとリンクさせるべきかなと思うんですけど、これについてのお考えはいかがでしょうか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、フットサルの日を制定してはどうかという提案をいただいておりました。そして、１月18日を果たしてフットサルの日として制定できるかなということで検討してきていたわけでございますけれども、サッカー等につきましては冬場の行事がかなりもう以前から入っておりまして、関係者の皆様もちょっとここでこの日をフットサルの日に制定するのはもう少し検討が必要だということで、そこまでは制定しない状態で交流大会を計画しているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ、１月18日、私もこだわっているわけでも全然ありませんし、あれですけど、とにかくサッカーとフットサルというのは切っても切れない縁がありますから、もう本当にそこは綿密に協議を行っていただいて、できれば未来永劫この日は武雄市のフットサルの日だというような日程を選択していただければなと思います。できれば後援、共催の団体の中に、佐賀県唯一のプロサッカーチームのサガン鳥栖も、ぜひ連携をとっていただいて行っていただくようお願いしておきます。

続いて、一昨年の11月に行われました関西大学との連携協力に関する協定についてであります。関西大学との具体的な連携で、これも過去の議会でも伺ってまいりましたけど、具体的な交流事業がまとまりつつあるようですけれども、これについて現在の進捗状況を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

関西大学との連携についてはさまざまあろうかと思いますが、スポーツでの交流ができないかということで協議いたしまして、今年度、サッカーと陸上、特に陸上でも中・長距離競技、ここにおいて大学の指導者を招聘し、交流事業を実施する計画でございます。今、計画しておりますのは、サッカー教室を１月31日から２月１日、土曜、日曜でございます。白岩競技場で小・中学生を対象の教室を開くと。それから、小学生と保護者対象の講演会といいますか、サッカーを通じた人間形成について、これは中学生以上、大人の人を対象にした講演会。先ほどのは小・中学生を対象としたサッカー教室、小学生と保護者対象の教室、そういう内容を考えております。陸上教室につきましては、３月１日、日曜日を予定しておりますけれども、武雄中学校で公募により参加者は中高生として、講演会、スポーツメンタルト

レーニング、スポーツ栄養学、そのあたりを今のところ計画しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

サッカーと陸上ということですね。大学のほうから指導者の方をお招きして交流事業と、これも非常に楽しみに私もしているわけですけど、これについてもう１点、対象者が小・中学生や高校生で、保護者の皆さんにも何か教室というのも考えられているということを認識していたかと思いますけど、例えば、サッカーのほうが１月31日と２月１日ということでしたけど、これの広報というか、一般公募を募集される上での広報というのはどのような形で行われているのかを御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

サッカー教室につきましては、１月31日の午後、サッカー教室を開きまして、その夜、講演を開く予定にしております。それから、次の日の日曜日の午前中に小学生と保護者の教室ということをしておりまして、これは実際上は関係の方々にはお知らせしておりますけれども、広報の仕方をもう少し私も確認して、それから人数の制限もどうしてもしておりますので、十分伝わるようにいたしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

広報も、関係者の方にいろいろ広報を行うというのはもちろん必要だと思いますけど、できればこういう事業は広く一般の方にも情報をお流しして募集をかけるような格好で、人数の制限がそこまで来れば、もうそれはそれでしようがないのかなということで、せっかくやっぱり予算を使ってお越しいただいてというような事業、交流事業を行うということであれば、ホームページなどでも掲載して広報していただいて、交流事業、関西大学とのスポーツ交流会というのが盛会になることを祈念して、次の質問に入りたいと思います。

続いて、これは13番議員の質問とちょっとかぶってしまいます。何しろ一番最後ですので、ほとんどかぶりまくるかなという気もしていたわけですけど、これまで文部科学省が推し進める学校の耐震化でありますが、皆さん御存じのとおり、昨年10月に文部科学省より出された「学校耐震化加速に関するお願い」という中で、今後５年間、平成24年度をめどにＩｓ値0.3未満の公立の小・中学校施設の耐震化を図るとの政府の方針について、これをさらに加速し、もう５年を待たずに、できるだけ早期に耐震化を図ることが提唱されております。政府としては、こうした各市町村の取り組みを支援する観点から、20年度の補正予算を

活用し、大規模地震により倒壊等の危険性の高い施設、この場合Ｉｓ値が0.3未満ということですけど――の耐震化について、平成20年から24年までの５年間での耐震化を１年前倒しし、23年までの４年間での完了を目指すと、20年度補正予算に所要の経費を計上されているようです。さらには、各市町におかれては、Ｉｓ値0.3未満の公立小・中施設の耐震化年次計画を積極的に前倒しし、耐震化の完了年次を早めるようなっているかと思います。そういう中で、Ｉｓ値0.3以上の施設についても、大規模な地震により倒壊等の危険性がある場合には速やかに耐震化を推進していただくとのことでありますが、Ｉｓ値、つまり耐震指標ということですけど、俗に0.6以上あれば比較的安全と言われる数値ではありますけど、改めて市内の学校施設の状況をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

耐震化につきましてお答えする前に、先ほどのフットサルの広報の件ですけれども、御指摘いただきましたとおり、ホームページにつきましては既に掲載しまして広報をやっております。そのほか、ケーブルテレビでありますとか、ポスターの掲示、それから公民館、あるいはゆめタウンの行政コーナー等々で先ほどのポスター等を張り出しまして広報しているという状況でございます。

それでは、学校の耐震化の関係ですが、内容につきましては基本的に前田議員にお答えしたのと同じでありますけれども、御指摘されましたとおり、学校の耐震化につきましては、中国の四川省の大地震を受けまして、Ｉｓ値で0.3未満のところにつきましては、20年度から22年度までということで３年間の、いわゆる５年間の計画をということで文科省は言っておったわけですけれども、これを前倒ししまして３カ年でと、特別な場合は４年でもというふうな話でございますけれども、そういう指導があっております。今回の国の２次補正におきましても、学校の耐震化の部分につきましては予算措置がされておりますし、国のほうでは前倒しをどんどん進めているという状況であります。本市につきましても、耐震化につきましては、大規模な地震で倒壊のおそれがある建物について、早期の改修、改築とか、耐震補強とか、こういったものを進めていく必要があるだろうというふうに考えておりますので、整備の計画を今しておりまして、最終段階を迎えておるということで、市長の最終決裁を得た上で公表してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。答弁にもありましたように、耐震化計画に沿って行われるというようなこと

にはなってくるかと思います。先ほどの答弁の中にもありましたように、Ｉｓ値0.3未満の公立小・中学校については、国庫補助率も３分の２まで引き上げられたり、交付税措置も引き上げられて、自治体の実質的な負担というのが13.3％にまで軽減されるというようなことを聞いております。これが平成22年度までの、とりあえず期限つきというような感じになっているかと思うんですけど、この点を踏まえて、武雄市では22年度までに何とかめどをつけようということなのか、ちょっと現時点ではもう期限としては間に合わないのではないかなというところなのか。というのも、やっぱり皆さんいろいろ気になっているように、学校の老朽化というのも皆さん大分気にもなっているようですので、そこら辺も時期的にどういう時期を考えられているかというのを御答弁できればお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

今お話しいただきましたとおり、補助率につきましてもかさ上げがされているということで、さらには交付税につきましても算入率を増嵩させているということでありまして、実は武雄市につきましては合併をいたしておりますので、これに加えまして、起債につきましては合併特例債を使うということになりますと、さらに交付税の算入率が上がるということになりますので、一般財源の使用につきましてはごくわずかで済むと。先ほど耐震補強で13.3％というふうにおっしゃいましたけれども、これよりも少なくて済むという状況でもございますので、私どもとしましては22年度までにＩｓ値が0.3未満の校舎につきましては整備を進めていきたいというふうに考えております。ただ、決定につきましてはまだいたしておりませんので、最終的には、また決定し次第、お知らせをしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

22年度までということで目標で、合併特例債も使って、さらにもっといい条件になるということですので、できれば早急に子どもたちの安心・安全な学習、生活環境を確保していただくことをお願いして、次に移ります。

学校問題、学校というか、教育についてがちょっと続くんですけれども、昨年末の出直し市長選挙によって、これに絡んで私も数多くの皆さんからいろんな御意見をちょうだいいたしました。その中で、私の年代がそうだからなのかどうかちょっとわからないんですけど、ひときわ多く寄せていただいた声の中に高校再編についてがありました。というのも、今回、病院について反対と言われていらっしゃる方が、リコールをしようとしてまでも反対をしてくれているよと。数年前に高校再編のとき、このときも同様なことをしてくれていれば武雄

青陵高校はなくならずに済んだのではないかという声も、そういう意見でした。もちろんこれまで諸先輩方におかれましても、リコールまでとはいかなくても、精いっぱいの活動をしていただいてはおりますけど、改めて皆様の御意見というのはもう本当に私の胸にしみました。いよいよこの春、武雄青陵高校の最後の学年が卒業します。３月14日には閉校式、また思い出を語る会が予定されており、数多くの武雄青陵高校ＯＢが出席することを期待しているところであります。最後の学年が卒業するということで、これに伴い、何が予想されるのかなと。この場でも以前から私も再三申し上げているように、今度は武雄高校への進学に向けての狭き門に対する受験戦争の激化が予想されるのではないかなと考えているわけですけれども、これについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

青陵高校が最終年度ということで、武雄高等学校への進学、受験等についてのお尋ねでございます。

基本的には、少子化している傾向というのがあっての統合であったり、再編であったりしているわけであります。それが１つと、もう１つは、進学先については生徒の興味、関心、適性、保護者の考え等に応じて選択されるものでありまして、受験競争という形で激化するかどうかというのは、現段階でお答えするのは非常に難しいわけでございます。いずれにしましても、進路選択でございますので、適正な進路選択ができるように、各学校に進路指導の充実と学力向上を図るように指導していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

その進路指導ですね。私も現役のときは、進路指導をいただいて何とか高校に行けたんじゃないかなと思い出しておりますけど、今回の武雄高校の進学についても、ことしの例をいくと、倍率が11月時点では1.0倍でしたか、0.99倍やったですかね、数字が示しているというようになってはおるんですけど、やっぱりさっき進路指導というふうに言われたように、そこの学校に行くにはもっと頑張らんばいかんぞとか、遠回しだったり、今のままやったらもう受けてもちょっと難しかぞというような感じで、いろんなアドバイスをいただいていたのかなと思うわけですよ。できるだけ高校に合格させたいというものがあったのじゃないかなと思うわけですけど、ことし武雄高校の募集定員は280名、これが来年、青陵中学から160名が自動的に入学してくるようになるため、来春の募集というのは120名になります。来春の武雄市内の子どもたちというのは何名卒業をされるのか、これも今回の議会で答弁あったかと思いますけど、再度お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今度の春じゃなくて、来春、次の年ですね。22年３月となるわけですが、この年に卒業する、現在、中学２年生になりますけれども、621名という数値になります。このうちの95名が県立中学校に在籍しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

来春です。あくまでも青陵中学から武雄高校に進学する子が95名で、トータルが621名ですから、単純に比較をして525名の市立中学校に通っている子どもたちが高校受験をするかと思うわけです。525名が、全部が全部、武雄高校を受験するわけでもなければ、いろんな目的があっていろんな学校を受けたりするんじゃないかと思うわけですけど、もう絶対数から見ても、525名から120名の枠というのはやっぱり極端に狭き門かなと思うわけです。その後の生徒数の推移というのを見ても、これからの今の子どもたちの児童・生徒数というのを見ても、比較的というか、全部が500名は軽く超えているわけですよ。そういうふうになると、過去２年の実績を見ると、青陵中学への市内からの入学状況というのは、95名が今の２年生ですかね、大体90名から100名程度となると、新たに武雄高校へ合格することができる子どもたちが、すべて武雄市からの中学生としても120名、合わせて220名、これは推測での数字になりますからちょっとあれですけど、単純計算でいっても280名の子どもたちは市外の学校へ通うことになるわけですよね、高校で。もちろん全部が全部、市内の中学生だけというふうにはならない、考えにくいかなとも思いますので、300名を超す子どもたちが市外の学校へ通学しなければなりません。もちろんさっき言いましたように、魅力があって市外の高校に通って何をしたい、あそこの学校に行きたいという子どもたちが、目標を持っている子はいいですけど、できれば武雄市内の高校に通いたいと考えている子どもたちもいらっしゃるわけです。保護者の方も、環境面や経済面から考えても市内の高校へ通わせたいと思っていらっしゃる方も多数いらっしゃいます。現実問題として、もう青陵高校という受け入れはありませんので、その中で比較的近い有田工業とか嬉野高校、杵島商業などを選択されているという話もよく耳にします。これについて、今どういうところが一番武雄市内の子どもたちが進んでいるのか、この辺の情報がわかれば御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市外にある高等学校でありますが、年度によって多い少ないは当然あるわけですけれども、

今年度で言いますと、有田工業、嬉野高校、杵島商業、佐賀農業、塩田工業と、それらはいずれも25名以上の生徒が通学しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうところが比較的武雄から近い、そして交通の便が比較的行きやすいというような流れで選ばれているのか、こればっかりは一人一人の意識調査というのをしなければ正確な情報というのはわからないかと思いますけど、行くところがないから市外という選択をされている子どもたちも結構やっぱり多くいらっしゃるわけですよね。高校分布の面から見ても、私は武雄市というのは本当に不利益を受けているように感じているわけです。現に県内の高校分布図を見てみても、10市の中で市内に１校しかないのは多久市の多久高校だけなんですよね。しかし、多久市は人口規模も武雄市の半分以下程度で、面積も半分以下ということで、この辺はちょっと単純に比較というわけにはいかないかなと思うんですけど、小城市や嬉野市、神埼市、鹿島市では市内に２校、鳥栖市は３校、伊万里市は４校、唐津市は６校、佐賀市においては13校というふうに、県内ほかの市と比較しても武雄市に高校が足らないというのはもう明白じゃないのかなと。何で武雄市だけがこういう状況になるのかなとすら思います。こういうことから学校誘致の必要性というのを肌で感じているわけですけど、うがった見方かもわかりませんけど、高校進学について、武雄市から子どもたちが多数出ていかなくてはならないような状況の中では、今後、定住人口がふえるかと言われると、正直疑問が残るわけです。にぎやかなまちに、住みよいまちに子どもたちは絶対に必要だと思いますし、育てやすい環境づくりというのは絶対に必要かなと思うわけです。そういうことから、積極的に学校誘致、武雄市内で子どもを学ばされるような環境づくりというのは必要不可欠だと思います。視点をちょっと変えて、中高一貫校というのは、武雄高校の校舎で一体型の中高一貫にしてもらって、青陵高校の校舎を利用して学校誘致に動くというのも可能じゃないかなと、これは以前の質問でもさせていただきましたけど、例えば、これは相手あっての話ですからあれですが、佐賀女子高、武雄校舎の皆さんに男女共学として新たにお願いするとか、ちょっとこれもまた難しいとは思うんですけど、ほかの市の県立高校を武雄市に誘致するとか、人口規模や交通の利便性から見ても、先ほど申し上げたように武雄市はちょっと余りにも不利益を受けているような感覚すらあるわけです。少子化の波が押し寄せてくるとは言いますけど、県全体を見渡して高校配置というか、高校再編を、今後またずっと高校再編というのが続いてくるんじゃないかなと。そうなったときに、ほかの市にある県立高校を武雄に誘致するというような、そういう高校再編も考えていただくようにならないものかなと、これについて教育長、まず見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

22年度高校入学者につきましては、武雄市はもちろん少し生徒数がふえる状況になります、わずかですけれども。それから、青陵中学校へ武雄市外から来た生徒数等々の兼ね合いで、今の計画では、22年度入学者については武雄高校を８クラスに編制したらどうかという検討がなされております。現在、22年度は青陵中から４クラス、入試で３クラスということでございますが、７クラスが普通でありますが、この年度に限ってですが、８クラスでできないかと。これは決定じゃありませんけれども、そういう検討がなされております。ただし、その次の年は杵島・武雄地区で３クラスの減ということですので、22年度についてはちょっと変わった動きになろうかというふうに思っております。

お尋ねの件は、私も最初、率直にそういうふうに思いまして、近隣高校、校長先生を訪ねまして、武雄市の出身生徒の占める割合、あるいは通学状況等含めてお尋ねをいたしました。もう武雄からが一番多いですよという学校も当然あるわけであります。ただ、専門的な勉強をしたいということで佐賀まで通って、甲子園まで行った方も片方にはいらっしゃるわけで、高等教育として専門性を求めて、通学がいやでも遠くなるという面は確かにあろうかなというふうに思います。それと逆に、高校全入に近い状況になっているということでは、保護者負担がふえるというのもおっしゃるとおりであります。係の方と話していて一番思ったのは、私どもは市単位で考えますけれども、やはり中高一貫のときにいろんな議論がなされていたように、西部学区という区切り方で考えてあるというところに１つ、もう少し私どもも考えないといけないところがあるなということで、今後、ただいまの御意見については十分理解いたしますので、また私の立場として考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと続いて市長にもお伺いしたいと思うんですが、学校誘致の話題というのがこれまでの議会でも出てきております。以前、学校誘致のことについても、高校に限らずですけど、質問させていただいたときには、新幹線が重要なキーワードになるという答弁をいただいておったかと思います。私立高校の誘致というのもあるかもわかりません。それとあわせて、今後行われる、先ほど申し上げました高校再編計画も、例えば、いろんな高校と高校が合併というような話になったりしたときに、これに便乗して武雄市に持ってくるぐらいのことをお願いしたいわけですよ。市長から知事のほうにでも、市民の皆様の切実な要望として取り上げていただくということはできないものかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれは答弁長くなるかもしれませんけど、御容赦いただきたいと思います。

まず、学校誘致については、着任してから看護系の学校を誘致したいということ、これは各保護者の方からの御要望もありました。そこで今回は、池友会が設置する正看護師の看護学校がここにできるということで、これはある一つの学校の誘致だというふうに思っております。

それと、正直に申し上げまして、幾つか企業誘致で上京とか、あるいは大阪に行ったときに、複数の学校から武雄に行ってもいいよという話、これは何回もアプローチはしましたけれども、ただ、やっぱり局面が変わったのが市民病院問題でありました。これはどなたを批判するわけでもありません。私にも原因がありますので、状況面だけ申し上げますと、我々が思っている以上にこれは全国的に報道をされたようです。これは確かに光の部分もあります。市民病院の件に関して、市を二分してこれだけ議論が熱烈にされているといったこと、それともう１つ、ある識者の方もおっしゃいますけれども、やはりこれは政争の不安定なまちだということを言われたんですね。病院をやるのに何で政局になるんだということも言われましたので、こういう不安定なところで、なおかつ、私、実は一たんやめた後、あるところに行ってきました。ぜひ、今は市長じゃないけれども、もし勝たせていただいたらまた来てもいいですかということも行きました。そのとき言われたのが、非常にショックだったのが、とにかく一致団結してほしい、安定させてくれ、政局が、あるいは武雄市政が安定しないことにはやはり来れないと。これは私も経験があります。関西大学を一括誘致しました。もうことしから予算がついて着工になります。そのときに、誘致は物すごいやっぱり労力がかかるんですよ。私も企画部長でしたけれども、もう仕事の９割５分が関西大学誘致に当たっていました。もう部屋にいませんでした、関西大学にいました。それと、そのときの首長の７割の仕事が関西大学の誘致でありました。なおかつ、そのときは議会、高槻もある意味政争です。自民党も２つに割れるぐらいですので、政争になりますけれども、そのときはやはり一致団結していたんですね。そのときにも私からお願いをして、議会にも非公式の誘致チームをつくっていただきました。そういうふうにして、議会、行政が一致団結をして、なおかつこれだけのメリットがあるというふうにしないと、なかなかやっぱり来手がないんですね。だから、それはぜひ市民の皆さんたちにも、これは御理解と言うと僭越かもしれませんけれども、そういう状況にあるということだけはお話をさせていただきたいというふうに思っております。

今後については、これは県の私学審議会等の関係があります。もう子どもはどんどん減っていますので、私学審議会との関係があり、知事との関係ももちろんありますけれども、これは議会の要望としても、私たちとしても、やはり誘致は絶対にしなきゃいけないというふうに思っております。そういった意味で、病院もしかりですけれども、やはり安心と融和、

私は選挙戦でそれで戦ってまいりましたけれども、今度はそれに向けて一緒にまた頑張っていければいいなというふうに思っております。もとよりそういう行政、誘致に当たっての事務的なことについては私はもう今までやってきましたので、霞が関にいるときもやってきましたので、それは一日の長があるというふうに思っております。その上で、ぜひ武雄が魅力的なんだと。要するに、ここに来ると、やっぱり子どもたちもいっぱい集まるんだということをあわせて情報発信するような、私自身、武雄市政を目指していきたいというふうに思っております。もとより誘致の考えについては、上田議員と全く同じであります。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

子どもを持つ親としても、もう最大の悩みというのは子どもたちのことについてだと思います。ぜひこの声を大事にしてもらいたいということをお願いして、次に移りたいと思います。

市民病院についての質問というふうに思っておりますけど、これまで諸先輩たちの質問等々で再三答弁されておりますので、重複は避けたいと思っております。

この中で、いろんな情報が錯綜していたかと思う中で、市民の皆さんの中から、ぜひこれも本当かどうか聞いてくれということが多々お願いされました。その中でも、ちょっと何点か確認させていただきたいと思うんですけど、まず１つ目は、今、移譲されると――移譲されるとというか、今の段階でもそうなんでしょうけど、すべてもう患者さんはＩＣＵというんですかね、無菌室というんですか、そういう、ちょっと言うと高い費用がかかる部屋に最初泊まらせられる、そういうことがあるのかと。そがんてやろうがというごとして、そがんことはなかと私もいろいろ説明をしても、もうよか、議会でちゃんと聞いてくれろということで言われました。ですので、これについて、まず御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

集中治療室での管理については、症状的に幾つか条件がございます。例えば、意識障がい、または昏睡、それから呼吸不全の慢性期の方の急性増悪や急性の呼吸不全、また心筋梗塞を含む急性心不全、それから急性薬物中毒、大手術後とか、救急蘇生術とか、また肝不全とか腎不全の方の重篤な代謝性障がい、その上に立って、医師が集中治療室で管理が必要ということを認めた者に限りＩＣＵで集中的に管理をするということになっていますので、救急で受け入れた患者をすべてここに入れるということではありませんし、また４床しかありませんので、物理的にもまず不可能ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

私もその辺は勉強させていただきましたので、わかってはおるものの、なかなか私の話も聞いてもらえないような状況で、もういろんな情報が錯綜しているような中でしたので、それとまた別に、今度、これはちょっと逆のほうの立場の方からの話なんですが、これまでの市民病院では、本来は患者さんが病院を選んで自分が行きたいところに行くというような流れになるかなというところが、病院が患者さんを選んでおったぞと。ちょっといろんな障がいのある方とか、何と言えばいいですか、いろんな障がいをお持ちの方とか、末期の重症患者とか、そういった方は、ベッドがあいておるにもかかわらず、ほかの病院に転送したりしよんさったてばいと、そういうことも言われて、そがんこともなかですよとは言うものの、なかなかそこももう信用してもらえんわけですけど、それについてもぜひ聞いてくれと、もうちゃんとしたところで聞いてくれということですので、ぜひこれも、済みません、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

先ほどの一般質問でも救急受け入れをして転院した部分でお話ししましたとおり、市民病院では、まずもって心臓疾患の方についてなかなか治療が困難というのは、機材もない、それと心臓外科なり循環器系の医師が常勤としていないということもあって、その方たちについては嬉野医療センターのほうに転送をさせました。この転送段階でも、処置、治療をした後に、私どもの医師が一緒に同行して向こうの医師に引き渡すというような形をとっています。また、慢性期治療で、私どもの病院で治療をするよりも、より専門的、例えば、佐大で治療をしたほうがよかろうというような方については、佐大とお話をしながら、受け入れていただけるのであれば、それを紹介するとかいうことで、患者さんの了解なくしては行っておりません。そういう意味では、なかなかビラ等でかなり私どもも問い合わせがあって困った部分がありましたけれども、そういう形の中で対応をしているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

もうそういうふうで、常識的な、患者さんにとって一番最良の選択をされているということですよね。そういうことで、こんな感じで、もう本当にいろんな情報が錯綜して、市民の皆さんからも、だれの話ば信じてよかとかわからんというごたるふうで、いろいろ言っていただきました。これは、私にとっても本当説明不足だったかなというところも痛感しているところではありますけど、今後もぜひ的確な情報を提供いただくことをお願いする次第であ

ります。

そして、これまでの質問を聞いておって、諸先輩方の質問を聞いておって、今回の選挙結果というのは、人それぞれとらえ方がさまざまだなと感じているところです。もう結果は御存じのとおりであり、ある一定の民意を得たという見解は私も一緒であり、粛々と今後、協議を進めていっていただきたいなとは思うわけですけど、トータルの選挙結果、約2,800票という差、これを大差と見るか、小差と見るか、これも十人十色、千差万別というか、いろいろ見方はあるかと思います。もう私も完全な市民病院選挙だと思っておりましたので、この結果を踏まえて、市長に今後大事にしてもらいたいというのは、もう民意を民意どおりで進めていってはいただきたいんですけど、今回、反対に投じた、例えば、１万2,945票という、この人たちの思いというのも、民営化に必ず無駄にならないように、ぜひ考えていっていただきたいと思います。この辺もさきの答弁等でいろいろ言っていただいておりますので、もう大体のことは皆さんおわかりかとは思うんですけど、市長もたくさんいろんな方の声を聞かれたということですので、もう既におわかりだと思います。私が聞いた中でも、もちろん民営化は完全反対という人もいらっしゃいます。その中で、最も多かったのは、民営化は賛成だけど、プロセスが悪いという声もやはりたくさんいただきました。やはり市民の皆様の多くの願いというのは、市長を初めとする行政の皆さんと地元医師会の皆さん、そして民間移譲先の、この３者が手を取り合う中で進める地域医療を望む、これを何とかしてくれということがたくさんいただきました。そんな中のこれまでの議会答弁、そして各新聞のコメント等を見て、私もようやく、遠回りをしたけど、本当によかったのかなと、３者プラスワンの協議会の設置とか、医師会の皆さんのコメントというのも見て、もう投票率70％を超えた中での民意は受け入れる、今後、協議のテーブルにも着いていただけるというような記事を私も見て、本当よかったなと思います。

最後に、トータルの選挙の結果を踏まえて、もう私はとにかく、やっぱり武雄市は丸くならんといかんとどなたかおっしゃっておったようです。武雄市は丸くならんといかんというために、市長は今後どういうふうに持っていかれようとしているか、意気込みを最後に御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、選挙結果の分析でありますけれども、私もよく聞かれるんです。これは大差ですか、小差ですかと。それは、私はわからないと答えているんですね。私に賛成を投じた方でも、反対を投じた方でも、それぞれの思いに、数ではないと思うんです。それよりも、こういうふうにしてほしいとか、こうあったらいいなということは、選挙戦のときでもさまざま承りました。これを真摯に市政に心の糧として反映をしていくということが、私にまず第一に望

まれていることだというふうに思っております。これは病院以外にもいろいろありました。その上で、私が今後努めなければいけないのは、やはりいろんなところで溝ができました。議会の中でも溝ができました。市民の中でも溝ができました。さまざまなところに溝ができたのは、その原因をつくったのは私にあります。そういった意味で、その溝を修復していくかけ橋になっていくのが、私の最大の今与えられた仕事だというふうに思っております。したがいまして、私がぜひお願いをしたいのは、やはり学校誘致もしかり、今度の病院もしかりであります。何よりも市民の皆様が望むことは、やはりある方がおっしゃった丸くすることだというふうにも、深く私もそれは思っております。したがって、これは新聞報道でしか知りませんけれども、明るい市民の会の皆様方に特に呼びかけたいのは、やはり一緒になって、いい医療をしていこう、いい市政を築いていこうということであります。したがって、一致団結のもと、そして私に耳の痛いことでもちゃんと聞きたいと思います。それが市民のためということであれば、私は今までの自分の考え方も捨て、市民のニーズに合わせてやっていくつもりでいますので、それが今回の私の選挙戦に当たっての最大の教訓だというふうに認識をしております。

終わりになりますけれども、市民病院の問題というのは去年の今ごろ端を発し、これは杉原議長がおっしゃっていますけれども、１年で市民病院のことについては一定の民意をいただいたということでありますので、第２段階として、新たな武雄市をみんなの力で築いていく、私自身はぬくもりのある元気な武雄市を目指していきたいと思いますので、ぜひ民意のもとに結集していただくことをお願い申し上げまして、私の答弁にかえます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

オール武雄で、今後、武雄市がよりよい方向に向かってくれることを信じて、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。